

ドル/円相場のトレード戦略

【ドル/円 週足】



■中期展望

本年年初に展望では、2018年の世界経済環境に関しては2017年の延長線上にあり、大きく変化する要因は見当たらず、通貨の強さも2017年の構図をおおむね引き継ぎ、ドル/円に関してはレンジ内で安定的に推移する可能性が高いと考えてきました。

堅調な米景気、FRBの利上げ観測の継続はドルを下支えし、緩やかなドルの上昇が期待できるため、大幅なドル下落のリスクは低いように考えられるものの、2017年12月のFOMCで発表されたドットチャートによると2018年は3回の利上げが予想であり、その点から考えると米国の長期金利の上昇幅は限られたものとなる可能性が高く、ドルの上値も限りがありそうで、昨年の高値水準が上値目標としてきました。

しかし、1月の相場は、年初に113円台の高値を付けて以降、ドルはじり安となり1月後半には108円前半まで値を下げました。

さらに2月に入ると、トランプ米大統領が洗濯機と太陽光パネルに対してセーフガード（緊急輸入制限）を発動することに署名し、貿易摩擦に対する懸念が拡大したことやムニューシン米財務長官が「弱いドルは貿易面で米国の利益になる」と発言したことなどをきっかけにドル安の流れが強まり、さらに米金利の急上昇と米株の急落を背景としたリスク回避姿勢の強まりから円買いが強まり、下値めどとしてきた昨年安値107円水準を下回り104円台にまで突入しました。

しかし、その後は良好な米国経済を背景にドルの買い戻しが進み110円台を回復する動きとなって

ドル/円相場のトレード戦略

います。

本年はレンジ相場が継続するという見方に変化はなく、想定レンジを100円～115円程度と考えていますが、年初の高値から3月安値の50%戻し水準が111円60銭水準、61.8%戻しが113円20銭水準であり、短期的にはこれらの水準が上値メドとして意識されそうです。

■短期展望

先週は、109円台でスタートした後、おおむね一本調子で上昇し、週末には111円台を付けました。

5月2日と10日に付けた高値の110円水準を上抜けたことで上昇に弾みがついた形です。

今週もドルは戻りの高値を試す動きが先行するものと思われます。

米国10年債利回りは3%台を回復しており、目先米金利の上昇は素直にドル高に結び付くことが期待されます。米FRBの利上げは6月が確実視されている上、9月利上げの織り込みも高まりつつあることもサポート要因です。

ただし、週足を見ると8週連続の陽線となっており、また年初高値から3月安値の半値戻しが111円半ばであり、短期的には天井感が形成される可能性も考えておく必要があるかもしれません。